

築山古墳(糸島市)

正面が築山古墳/4世紀末頃築造の帆立貝形前方後円墳/左手前が前方部(一部破壊されている)、右奥が後円部/西側から見たところ



左奥に説明坂が立っている/右手前の説明坂は三雲・井原遺跡についての説明坂/正面は東観音堂の建物でその背後が後円部



築山古墳 Tsukiyama Tomb

糸島市三雲寺口

中国の歴史書『魏志倭人伝』に記された「伊都国」の中心部に築かれた前方後円墳です。前方部は北西を向きますが、現在、前方部、後円部とも一部破壊されています。

1974年(昭和49年)に行われた調査によって、墳丘の全長約60m、後円部の直径約49m・高さ約8m、前方部の長さ約15m・幅約25m規模の、後円部に比べ前方部が短い帆立貝式の前方後円墳であることが確認されました。斜面には葺石が施され、周囲には層形の周濠が巡っていたようで、周濠を含む全長は約105mになります。

主体部は未調査ですが、周濠からは壺形埴輪や円筒埴輪が出土していて、この古墳が築かれたのは、今から約1,600年前の4世紀末ごろと考えられ、この古墳の北にある塚山古墳に後続して築かれたと考えられています。また、古い記録には、付近に「茶臼塚」と呼ばれる古墳が存在したことが記されていますが、その位置は確認されていません。

この古墳に葬られた人は、弥生時代の「伊都国」の王に代わってこの地域を支配した、大和政権と深いつながりをもった豪族であったと考えられています。



築山古墳周濠葺石復原図

This tomb, which has a square front and a circular rear, was constructed at the central portions of the Ito kingdom. The front section of the tomb faces the West; however presently both the front and rear are partially damaged.

The length of the hill upon which the tomb is about 60 meters, the diameter and height of the rear are about 49 and 8 meters respectively, the length and width of the front are about 15 meters and 25 meters respectively. The slope is covered by stones and around the perimeter runs a trench. The total length of the outside perimeter trench is 105 meters.

While the central section has yet to be examined, since both jar and cylinder shaped clay figures were excavated from the perimeter trench, it is believed that this tomb was constructed roughly 1,600 years ago.

It is also believed that this tomb was constructed in succession to the Hayama Tomb located just to the North. Although old records indicate the existence of a tomb called "Chausuzuka" nearby, the exact location has yet to be identified.

The remains of those buried in this tomb are believed to have been those of a powerful family that had significant ties with the Yamato regime and had ruled this region on behalf of the king of the Ito kingdom during the Yayoi period.

糸島市教育委員会

つき やま こ ふん
築山古墳
Tsukiyama Tomb

みくも てらくち
糸島市三雲字寺口

中国の歴史書『魏志倭人伝』に記された「伊都国」の中心部に築かれた前方後円墳です。前方部は北西を向きますが、現在、前方部、後円部とも一部破壊されています。

1974年(昭和49年)に行われた調査によって、墳丘の全長約60m、後円部の直径約49m・高さ約8m、前方部の長さ約15m・幅約25m規模の、後円部に比べ前方部が短い帆立貝式の前方後円墳であることが確認されました。斜面には葺石が施され、周囲には盾形の周濠が廻っていたようで、周濠を含む全長は約105mになります。

主体部は未調査ですが、周濠からは壺形埴輪や円筒埴輪が出土していて、この古墳が築かれたのは、今から約1,600年前の4世紀末ごろと考えられ、この古墳の北にある端山古墳に後続して築かれたと考えられています。また、古い記録には、付近に「茶臼塚」と呼ばれる古墳が存在したことが記されていますが、その位置は確認されていません。

この古墳に葬られた人は、弥生時代の「伊都国」の王に代わってこの地域を支配した、大和政権と深いつながりをもった豪族であったと考えられています。

墳丘には葺石が施され、周囲には盾形の周濠が廻っていたと云う



築山古墳周濠区画復原図

後円部の左手で前方部方向を見たところ/周濠の感じが見て取れる/右手に後円部墳頂に登る道が見える



築山古墳(左手)の前方部の残存状態が見て取れる/平原遺跡にある説明坂の写真より



墳頂に登ってみる



これが東観音堂/「11面観世音菩薩」が祀られた祠らしい



境頂はこんな塩梅



石造物がある





これは東観音堂の背後で前方部方向を見たところ



その前方部を西側から見たところ



アップで見たところ



これは北西側から前方部を見たところ



参考ホームページ

<https://blog.goo.ne.jp/noda2601/e/88db40aacabb0fcef03de4a60242b94b>

<https://ameblo.jp/indyaki12/entry-12372894946.html>

https://lovery-iruka.at.webry.info/201401/article_16.html

<http://www.buccyake-kojiki.com/archives/1017875344.html>

<http://kofunmeguriwalking.web.fc2.com/tsukiyama.html>

<http://beccan.blog56.fc2.com/blog-entry-4071.html>

